りくつなケアネット金澤　県民公開講座報告書

平成 27 年 2 月 5 日

報告者：白山武志

1. テーマ：まちでみんなで認知症の人をつつむ　～共感と協働のまちづくり～
2. 日　時：平成 27 年 2 月 1 日（日）、10 時～12 時 40 分
3. 場　所：金沢都ホテル地下２階セミナーホール
4. 講　師：大谷るみ子氏　社会福祉法人東翔会　グループホームふぁみりえホーム長
   大牟田市認知症ライフサポート研究会代表
   NPO 法人福岡県高齢者グループホーム協議会理事長
5. プログラム：第１部　大谷るみ子氏のご講演
   ：第 2 部　まちづくりシンポジウム
   黒瀬亮太氏　　金沢ホームケアクリニック　医師
   高島久美子氏　なないろ訪問看護ステーション　看護師
   地原尚子氏　　ケアプランセンターすこやか倶楽部　介護支援専門員
   ：第３部　意見交換
6. 参加者：161 人
7. 内　容：

１）第１部（大谷るみ子氏講演）

① 認知症の「人」の理解が大切である

本人の体験している世界は、わからないことの連続から「不安と混乱」、家事や仕事の失敗から「自尊心の喪失」、現実の世界についていけないことから「焦燥、怒り」、自分が壊れていくことに対する「強い恐怖」、誰にもわかってもらえない辛さからの「空虚感」を感じている。

② 認知症をかかえ、生きることには 5 つの危機があり、それを乗り越えなければならない。

着替えなど自分のことができなくなる「自立の危機」、大事な薬を飲み忘れるなど「生命の危機」、火の不始末や行方不明になるなど「安全の危機」、親子や夫婦、友人などの関係性が壊れる「絆の危機」、自分が保てなくなる「アイデンティティの危機」がある。この５つの危機をうまく乗り越える、回避してくには、ケアや他職種連携によるサポートが必要になってくる。

③ 病態の理解に基づくケアの重要性について

なぜ起こっているのかを紐解く必要がある。そこには、病気の種類、体調の変化、気持ちの面、病気の面からみることが重要で、医療と介護の連携がリスクを予測して危険を減らすことになる。なぐざめ、自分らしさ、たずさわること、共にいること、結びつきの 5 つを求めている。

④ 新しいケアであるパーソンセンタードケアについて

ご本人が中心で、ご本人の物語性を大切に、ご本人を認めながら行うケアであり、ニューカルチャーと言われている。利用者本位のケアで効果が期待でき、地域全体で見守るなどのニューカルチャーを作って行くまちづくりが大切である。

⑤ 大牟田市のまちづくりについて

平成１４年度に認知症介護に関わる実態調査を実施した。多くの方々が、認知症の人を家族だ

けで抱えてはいけない、病院だけにまかせてもいけない、地域で支える意識や仕組みが必要と回答した。そのときの自由意見が活動の基盤となった。向こう三軒両隣、小学校区単位の身近なネットワークづくりを公民館や民生委員、婦人会、サークル、サロンなどの地域資源を利用した取り組み。認知症を隠さず、恥じず、見守り、支えるという地域全体の意識向上への取り組みに向けて、子供の頃から学ぶ、触れる機会をつくる。そこで絵本「いつだって心は生きている」を作成した。推進者の育成、家族への支援などがあがった。

⑥ 人材（推進者）育成（大牟田市）

平成 15 年度から認知症コーディネーター研修を実施。専門職が 2 年間 406 時間学ぶシステムを作り、地域に配置した。地域に行われる活動を認知症コーディネーターが行う形となっている。平成 18 年からグループホームと小規模多機能には受講義務化にした。地域包括支援センターにも必ず配置し、現在 95 名が修了し、ボランティアで自分の地域で貢献する。

⑦ もの忘れ検診、予防教室（大牟田市）

認知症と言われることが不安で、なかなか受診者が増えていかない現状である。しかし、認知症に対する啓発が進むにつれて、受診者が増えており、開催場所など工夫している。

⑧ 徘徊という言葉を使わない大牟田市

徘徊という言葉を使わない取組みを行っており、外出、散歩などの言葉を用いている。

⑨ 見守り・捜索訓練(大牟田市)

1 人の 100 歩より、100 人の 1 歩をスローガンに、日頃からの見守りの力を高めることと、セーフティネットワークづくりのために行っている。認知症役をつくり町全体で訓練を行っている。

⑩ 大人・子供・認知症の方が集まる場づくり（大牟田市）

題材は、なんでもよいが、冬は人情巻き寿司づくり、夏は人情そうめん流しを行っている。

⑪ ほっと安心ネットワーク（大牟田市）

認知症に対する地域の意識を高め、地域ぐるみで声掛け、見守りを行え、安心して外出・散歩ができる街づくりを目指す。行方不明になったら、警察に届け出があり、いろいろな所へ連絡がまわるが、模擬訓練を継続したことでネットワークが骨太になり、今では、大牟田市から全事業所や民生委員、商店、住民などへ連絡がまわる。今はメールが主であり、30 分で回まわってくる。見つけた時の声のかけ方なども練習しており、町全体が日常的に声をかける習慣ができ、住民の方がみつけて、通報してくることが多い。

⑫ 小中学校での絵本教室（大牟田市）

「いつだって心は生きている」という絵本を作り、絵本を使ってグループワークを行う。認知症の理解、自分のできることなどを話し合って考える機会となり、模擬訓練やサロン、集まる場などに参加するようになる。今まで何千人もの小学生が巣立って、まちを支えている。

⑬ 会場からの質問

質問：ネットワークに参加していない住民に対して、どのように参加につなげるか？

回答：校区でのいろいろな取り組み、模擬訓練の日程を全住民に伝える、メディアを使うなど、工夫していくことで参加者は少しずつだが増えている。つながりを深めていくことが大切である。

2）第 2 部（まちづくりシンポジウム）

① 在宅医療について（医師：黒瀬亮太氏）

医療だけはなく、介護・福祉など生活を支えるスタッフと連携して生活が成り立つように関わっている。病気を探すのではなく、生活に支障がないようにという考え方で診ている。認知症の方にとって必要なのは、薬などの医療よりも、介護や見守り、地域の関わりがより重要になってくる。また、家族が相談する窓口も必要である。

② 訪問看護の現状と今後の展望について（看護師：高島久美子氏）

訪問されている半数が認知症を抱えており、薬の飲み忘れや多く飲むなど管理ができなくなってくる。ケースやカレンダーなどを使用し、飲み忘れた時の「気づき」につなげ、しっかり飲めるように関わっている。予防的な訪問看護の利用を進めることで早期対応が行え、本人や家族の不安を多職種と連携し軽減することができる。今後は近所、民生委員などへ働きかけていきたい。

③ ケアマネとは（主任介護支援専門員：地原尚子氏）

ケアマネが認知症と診断された本人やご家族と、どのように関わっているか説明された。初回訪問では、家族が前に出てきて、本人は後ろの方で、どうして？という感じである。本人と 1 対 1 で話せる機会を作るようにしている。ご本人の言葉を少しでも聞き、それを家族に伝えることで家族の見方が変わり、ご本人も柔らかくなり、真ん中にくるような印象を受ける。介護調整だけではなく、今だけを見ず、共に過ごす、常に人生の先輩に教えもらうように関わっている。

3）第 3 部（意見交換）

① 介護を拒否される方にどうすればいいのか？（開業医）

まず家族に関わることで家族の本人への対応が変わる。独居の場合は、何度も通うことで人間関係を作り、デイだけではなく、サロンや予防教室など違った視点で関わり続けることが大切。誰が通い続けるかという問題もあるが、大牟田市は、コーディネーターが関わることがある。

② グループホームで夜間徘徊する。困ると言われるが、薬をあまり使いたくないが？（開業医）

昼間の過ごし方をみる、達成感がある活動をおこなっているか、体調はどうかを考える。自宅の場合は、チームで連携し考えることが重要で、GPS を使うなど今できる手立てをつくる。睡眠薬を用いると転倒リスクが高まるため、昼間の過ごし方をみて、安全対策をしっかり行う。地域の住民に理解を得て、対応（連絡してもらうなど）を伝える。

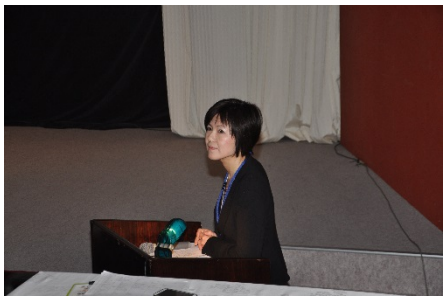
③ 定期的に通うが見たことがある人レベルでその先につながらない？地域にどのように関わればいいのか？（介護支援専門員）

知っているレベルまで行くことは、次につながる一歩となる。なぜ行きたくないか？という理由を聞くことが大切で、意見が出てくることで、どこが合うのか、わかってくる。医療を好きな人がいるから訪問医師や訪問看護師を利用することも方法。地域の方へは、当たって砕けろで、関わっている。コンビニなども通って関わることで協力してくれるようになる。声をかけて、「もし困っていたら、ここへ連絡してください」など、つながっていくことが大切である。地域商店と本人はつながっていることが多く、トラブルにならないようにサポートしていく。

8. 感　想：大牟田市では、認知症の人が住みやすいまちづくりが進んでおり、人材育成が重要であると感じた。小学生から絵本教室、模擬訓練、集まる場への参加で認知症について身近に感じ、知識や関わりを深めることで、自然に町で声をかけられるようになると思う。町で見かけても、声をかけることができない現状である。金沢市でも見かけたときにどのようなネットワークで連絡が回るのかなど、コミュニケーションづくりが重要になってくる。また、小中学生にも働きかけることも行いたい。

9.　会場風景

開会挨拶　洞庭先生



司会　倉下さん

第１部　座長　木谷さん

講師　大谷るみ子先生

シンポジスト　黒瀬先生

シンポジスト　高島さん

シンポジスト　地原さん

第２部　座長　鍋谷さん

閉会挨拶　菊地先生

開場前打ち合わせ

記念撮影

充実した研修会になりました
みなさんおつかれさまでした